

## 耐震に関する用語説明

### 1 新耐震基準

建築基準法（施行令）の改正により、新しい耐震基準が施行されました。新耐震基準の建物とは昭和56年6月1日後に建築されたものをいいます。

### 2 耐震診断（第2次診断）

耐震診断は、新耐震基準（昭和56年以前）施行以前の建物について、地震に対する安全性を構造力学上診断するものであり、診断の結果、構造耐震指標（ $I_s$  値）が0.6未満の場合、「地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性がある」（平成18年国土交通省告示第184号）とされています。

### 3 $I_s$ 値

$I_s$  値（構造耐震指標）とは耐震診断により、建物の耐震性能を示す指標で  $I_s$  値 0.6 以上で耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省は学校では 0.7 以上に補強するよう求めています。 $I_s$  値 0.3 未満は大規模な地震（一般的に震度6強程度）により倒壊の危険性が高いとされています。

### 4 耐震化優先度調査（優先度調査）

耐震化優先度調査は、耐震診断又は耐力度調査を実施しなければならない学校施設を多く所管している地方公共団体等の設置者が、どの学校施設から耐震診断又は耐力度調査を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的としており、その結果は ～ の5段階の優先度ランクに判定されます。

数字が低いほど危険とみなされ、ランク 、 が  $I_s$  値 0.3 未満と想定されます。

### 5 耐力度調査

耐力度調査は、老朽化した建物に対して、建物の構造耐力、経年による耐力低下、立地条件による影響の3点の項目を総合的に調査し、建物の老朽化を総合的に評価するものです。

耐力度調査による耐力度点数は建物の危険な状態の度合いを示し 4,500 点未満は文部科学省の改築の要件となっています。

### 6 $q$ 値

$q$  値とは、保有水平力に係る指標で、1.0 以上であれば倒壊や崩壊の危険性が低く、1.0 未満では危険性があるとされています。（鉄骨造で指標とします）

保有水平力耐力とは、建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さをいい、各階の柱、耐力壁及び筋かいが負担する水平せん断力の和として求められる値をいいます。

## 7 CT × SD 値

CT × SD 値とは、建物にある程度の強度を確保する目的の建物の形状(SD)や累積強度(CT)の指標に関する判定基準です。

(鉄筋コンクリート造で指標とします)

Is 値が高くてもこの値が低い場合は安全としない目安です。CT × SD 値が 1.25 以上では Is 値が低くても安全とし、0.3 以下では Is 値を満足しても安全としません。